

▽ 野生動物による被害を防ぐために－ 熊への対応 －

令和7年9月
東京都教育庁
指導部指導企画課

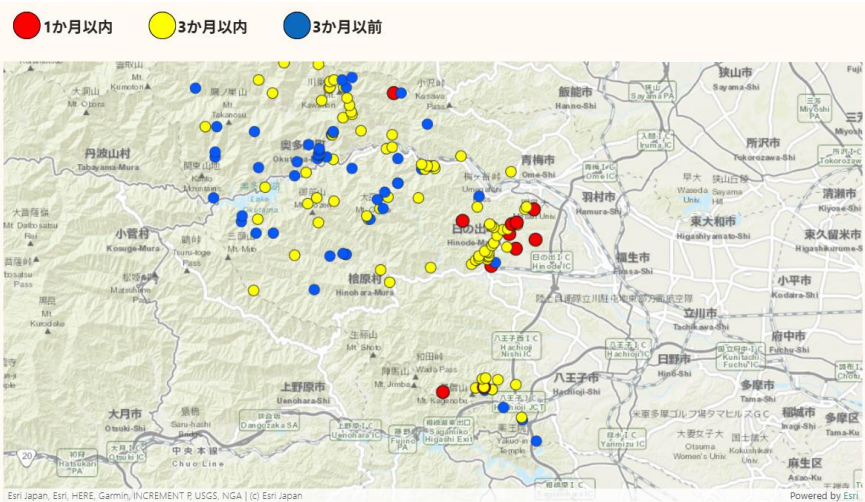
熊の出没が増加傾向に

近年、全国的に野生の熊による被害が深刻化しています。北海道ではヒグマが市街地や民家に侵入する事例が相次いでおり、都内においてもツキノワグマの人身被害が発生しています。特に、熊類による人身被害は秋（9～11月）に発生しやすいとされており、校外学習や合宿等、山間部に近い場所で活動する場合、熊との遭遇リスクが高まることが想定されます。



本資料は、子供たちを熊による人身被害から守るため、指導のポイントを「遭遇を防ぐための行動」と「遭遇したときの対応」に分けて整理したものです。

＜ツキノワグマの出没箇所（令和7年中）＞



（掲載したマップは、8月末現在のもの）

環境局「東京都ツキノワグマ目撃等情報マップ～TOKYOくまっぴ～」より

熊の身体能力と特徴

- △ 時速40 kmで走ることができる
- △ 可動域の広い関節と鋭い爪をもつ
- △ 水泳も得意で、木に登ることもできる

＜日本に生息する熊とその特徴＞

種 類	分 布	特 徴
ツキノワグマ	本州・四国	胸部に月の輪模様／体毛が黒い
ヒグマ	北海道	大型／肩部の筋肉が隆起

押さえておくべきポイント

基本的な対応は、市街地のような人の生活圏内で遭遇した場合でも同じです。

＜遭遇を防ぐための行動＞

- ✓ 入山前（準備等）
 - 熊鈴やラジオ等を身に付ける。（音で人間の存在を知らせる。）
 - 食べ物・ゴミの管理徹底
 - 複数人で行動
- ✓ 山行時（登山時や下山時）
 - 痕跡（フン・足跡）を見たら引き返す
 - 登山道で見通しの悪い場所（藪など）や沢の音が大きく響く場所などでは、熊と鉢合わせしやすい。また、熊の活動時間である早朝や夕暮れの時間帯は注意が必要。



＜遭遇したときの対応＞

- SOS 基本原則
 - ✗ 走らない（熊は逃走する対象を追いかける傾向がある。）
 - ゆっくり後退 ・ 落ち着いて距離をとる。

SOS 遭遇時のケース別対応

状 況	対応方法
遠くに見えた	静かに退避する。
近くで気付いた	熊を見ながら、ゆっくり後退する。
至近距離で突発的に遭遇	攻撃的行動に対して、両腕で顔面や頭部を覆い、うつ伏せになる。



児童・生徒への伝え方（3つの約束）



- 1 遭遇を防ぐための行動を徹底する
- 2 走らず・背を見せず・静かに退避
- 3 必ず大人に知らせる

参考資料

- ✦ 環境省「クマ類の出没対応マニュアル－改定版－」（Ⅱ 出没時の対応：資料内 p 40～p 73）
- ✦ 東京都環境局「被害を防ぐために」

（イラストは生成AIにより作成）